

強みを生かした

「インクルーシブ サポート」

の実現に向けて

期日: 令和7年10月23日(木)



Agenda

- 1 . 共有したいゴール
- 2 . 釧路市の現状と課題
- 3 . 令和6年度の実組
- 4 . 令和7年度の実組
- 5 . 今後の展望



Set goals

強みを生かした連携で

「全ての子どもと家庭に
必要なサポートを」

釧路市の現状と課題

相談件数の増加

近年、特別支援教育に関する相談件数は増加傾向にあり、その内容も多様化・複雑化している。早期からの切れ目ない支援体制の構築が求められる。



連携の必要性

個々のニーズに応えるため、家庭、学校、そして医療・福祉・行政などの多岐にわたる関係機関との密な連携が、これまで以上に重要。



令和6年度の取組

関係機関の強みを生かした連携

第1回連携協議会の開催



障がい福祉課

こども育成課

健康推進課

こども支援課

児童発達支援センター

教育委員会

令和6年度の取組

第1回連携協議会の開催



保護者への支援体制

円滑な接続

課題の明確化

教員の資質向上

令和6年度の取組

複数の事例検討の実施

教員の専門性向上

関係機関との連携不足



障がい特性に応じた支援
の必要性

切れ目のない支援

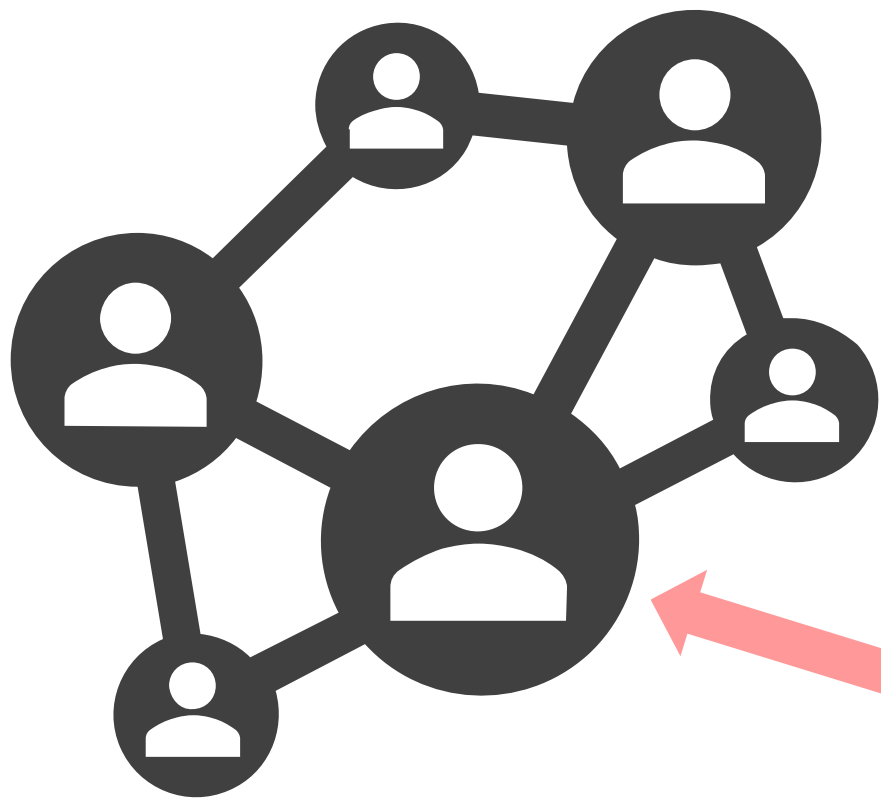
課題の明確化

家庭との連携の困難さ

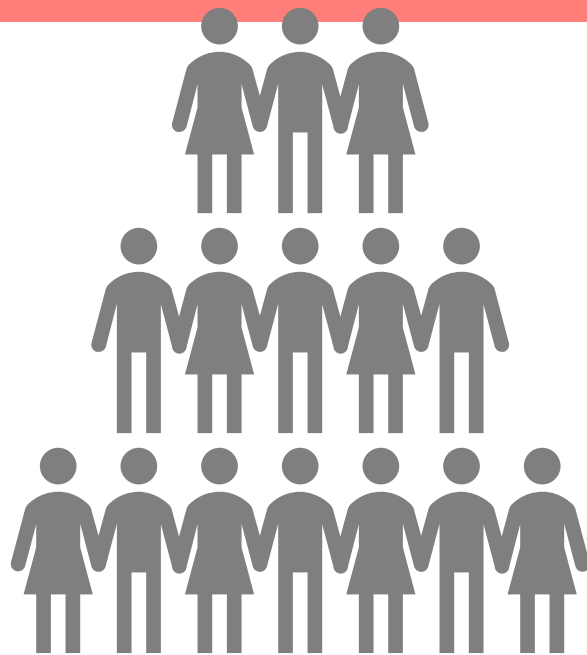
キャッチ
フレーズ

大きな一歩より
確かな一歩を

令和7年度の取組



特別支援教育コーディネーター



令和7年度の取組

1. 学校内の関係者や関係機関との連絡調整

特別支援教育コーディネーターは、学校内の関係者や教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関との連絡調整、保護者との関係づくりを推進します。

(4) 外部の関係機関との連絡調整

特別支援教育コーディネーターは、巡回相談員や専門家チームとの連絡調整が必要になった場合の窓口となります。

また、特別支援学校（センター的機能）やその他の教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関等との連絡調整も行います。

地域の教育、医療、保健、福祉、労働機関やそれらが提供している支援内容等について情報を収集・整理し、必要に応じて教員や保護者へ情報を伝えます。

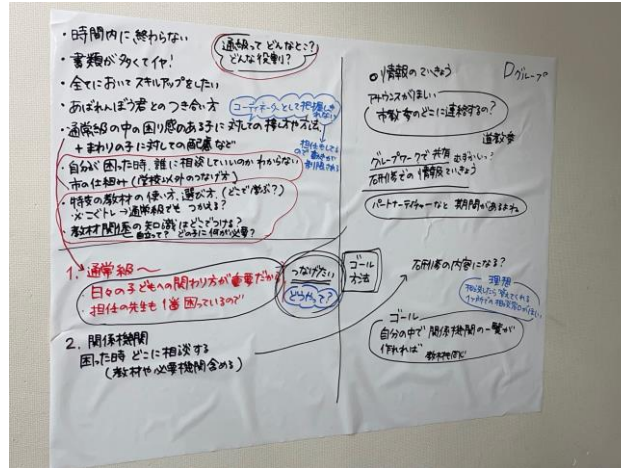
令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

特別支援教育コーディネーターとして、学校内外の関係機関と連携し、効果的な支援体制を構築・運営するための専門性を習得し、全ての子どもが適切な支援を受けられるインクルーシブ教育システムを構築する資質・能力を養う。



研修計画ワークショップ



令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

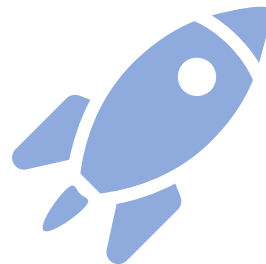
特別支援教育コーディネーターとして、学校内外の関係機関と連携し、効果的な支援体制を構築・運営するための専門性を習得し、全ての子どもが適切な支援を受けられるインクルーシブ教育システムを構築する資質・能力を養う。

ベーシックコース



支援の基礎固めと実践力の土台作り。特別支援教育の理念から効果的なケース会議の運営まで、基本的なスキルを演習中心で学ぶ。

アドバンスコース



社会的自立を見据えた応用力・連携力を育成。進路指導や多岐にわたる外部機関との連携など、より高度で専門的な実践力を養う。

令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

研修を支える独自の手法

実践的・協働的な学び

知識のインプットだけではなく、参加者自信が考え、動き、他者と協力する「実践」の場を重視。

- ✓ 校内研修を想定したプレゼン資料作成など、アウトプット中心の課題設定。
- ✓ 実際の場面を想定したロールプレイやケーススタディで現場で活きる力を養う。



核となるツール

ホワイトボード・ミーティング®

すべての演習でこの手法を活用。意見を可視化することで、思考を整理し、建設的な対話を促進。



令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携

関係機関の紹介と ケーススタディ形式の演習

- ✓ 関係機関との連携における課題の共有
- ✓ 外部機関の種類と役割
- ✓ 他機関連携による包括的アプローチの実践をもとにしたケーススタディ

障がい福祉課

こども支援課

児童発達支援センター

教育委員会

令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携

他機関連携による包括的アプローチの実践を もとにしたケーススタディ

診断と特性

ASD・ADHD診断済み
WISC知能指数90

行動特性

反抗挑戦性障害
高い攻撃性

その他

服薬拒否
感覚過敏あり



Aさん
6年生

日常生活

社会生活能力
3歳3ヶ月程度
ゲーム依存傾向

令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携

フェーズ2：支援体制の検討

- 1 Aさんの行動に変化が見られた要因は何だと思えますか？
- 2 このフェーズで明らかになった新たな課題は何ですか？
- 3 母親のストレス解消のために、学校としてどのようなサポートが考えられますか？



令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携



レスパイトということであれば、 మరిも学園へのショートステイや、ケースバイケースではあるが、障がい者のショートステイサービスもある。個々のケースによって何ができるかを考えていくことが大切であるため、まずは保護者の面談をして、どんな支援が必要か様々な資源と照らし合わせながら考えるようにしている。子育てに困っていたり悩んでいたりする保護者で、相談先が無いような保護者がいたら、こども支援課につなげていただきたい。教育委員会を通してでも、保護者から直接、電話などで相談いただいてもよい。

令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携

児童発達支援センターは地域支援相談を行っているが、こちらにつながってくるきっかけとしては、1歳半検診などで保健師さんから紹介されたりするケースがある。1歳半検診を過ぎてから困り感が出てくる場合や、保護者の障がい理解が進まないなどの背景からなかなか相談につながらないケースがあることも事実である。そういった意味では、潜在的に障がい理解がされていないお子さんがいることは現実としてある。

本事例について、本人の特性に家庭での不適切な対応がかけ合わされて二次障害が引き起こされている印象をもつ。保護者への発達特性を含めた専門的な説明や継続的な話し合いが望ましいと感じる。



令和7年度の取組

特別支援教育コーディネーター認定研修

演習② 外部機関との連携

- 釧路市の支援体制や各機関の役割を具体的に知り、どこに相談すべきかが明確になった。
- 学校だけでなく外部機関と連携してチームで支援する重要性と、その調整役としての自身の役割を再認識した。
- 研修での学びを全教職員で共有し、組織的な支援体制を築くことで、より効果的な支援を目指したい。
- 実践的な研修内容であったため、現在直面しているケースへの具体的な活用イメージをもつことができた。
- 各機関の専門性を理解し、学校内でできる支援と外部に助けを求めるべきことの判断基準が明確になった。

今後の展望

特別支援教育コーディネーター認定研修 来年度に向けて

運営体制

研修修了者が主体となり、教育委員会が支援する協力体制を構築します。

教育委員会

サポート

認定研修修了者による企画・運営チーム

研修参加者



今後の展望

特別支援教育コーディネーター認定研修 来年度に向けて

研修形式

多様なアプローチにより、学習効果の最大化を図ります。

関係機関の職員



少人数
グループワーク



事例持ち寄り
検討

連携協議会



外部専門家の
招聘

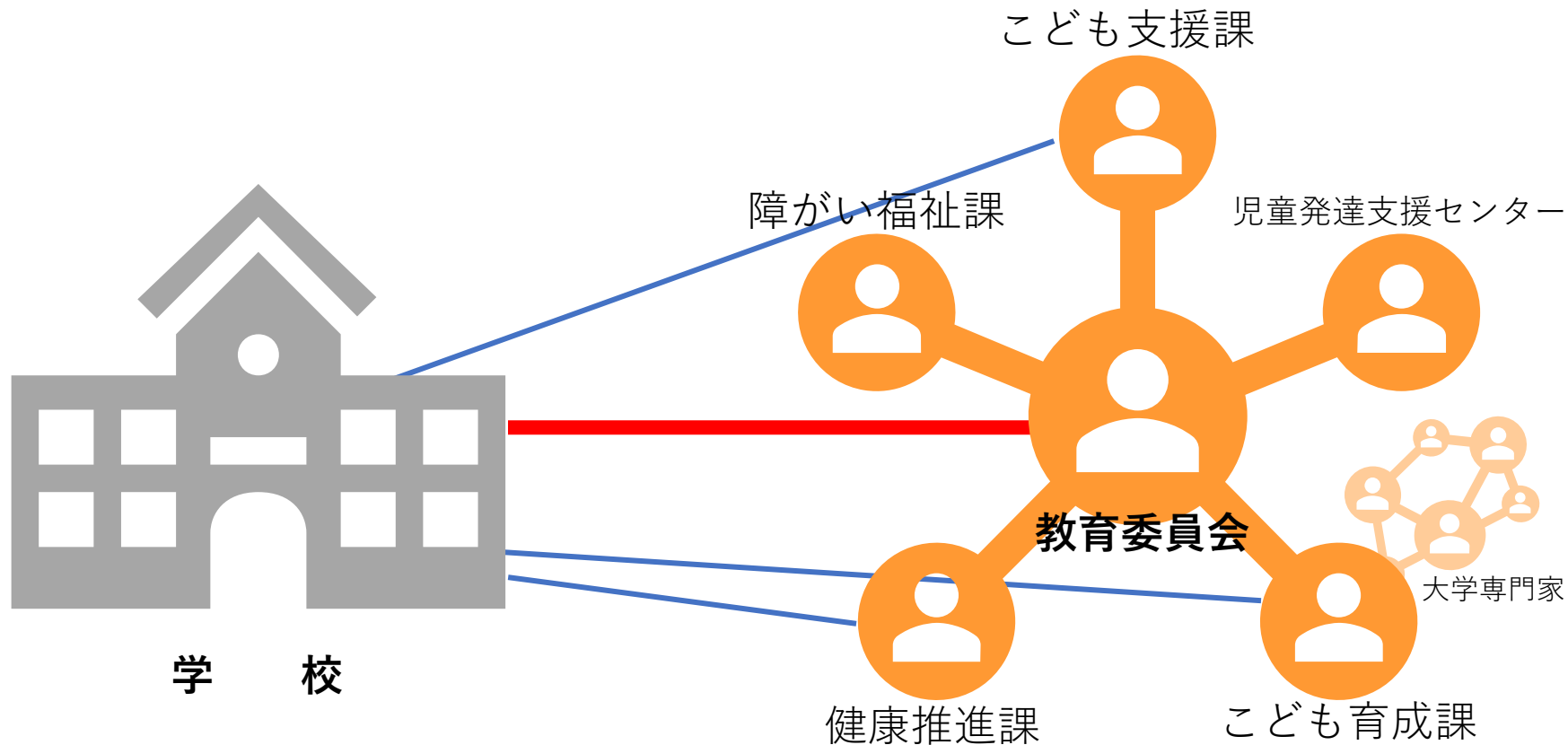


定期的な
フォローアップ



今後の展望

関係機関の連携強化



今後の展望



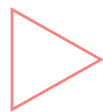
ニーズに応じた
保護者支援



丁寧なアセスメントと関係
機関への接続(ハブの役割)



資質向上



関係機関の研修機会



**関係機関の強み
を生かした連携**



切れ目のない支援体制
どの時期に、どの機関が、どのよう
な支援をするのかを明確に

Set goals

強みを生かした連携で

「全ての子どもと家庭に
必要なサポートを」